地 域 再 生 計 画

１．　地域再生計画の名称

まるごと自然～但馬中央の郷計画（第２期）

２．　地域再生計画の作成主体の名称

兵庫県、養父市

３．　地域再生計画の区域

養父市の全域

４．　地域再生計画の目標

（１）市の概要

養父市は、平成 16 年４月１日に旧養父郡４町（八鹿町、養父町、大屋町、関宮町）の合併により誕生した。地理的には兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、山岳高原地帯など豊かな自然を有している。面積は、422.78 ㎢と広大で、兵庫県の 5.0％、但馬地域の 19.8％を占めている。

気候は裏日本型で、一般に多雨多湿、冬季は大陸からの季節風が強く、積雪も多いため、山沿いの集落では一夜に１ｍを超す雪が積もることも珍しくない。

交通については、ＪＲ山陰本線が通っており、市内に二つの駅がある。また、京阪神と山陰を結ぶ国道９号が東西に、姫路方面と山陰を結ぶ国道 312 号が南北に伸び市内で交差しており、山陰地方への分岐点となっている。さらに、平成 24 年 11 月供用開始に向け、北近畿豊岡自動車道・和田山八鹿道路の工事が進められており、市内にも八鹿氷ノ山 IC、養父 IC の二箇所のインターチェンジが設置される。

（２）養父市の特性

氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されている兵庫県最高峰の氷ノ山(1,510m)やハチ高原、妙見山、「日本の滝 100 選」に選ばれた天滝（落差 98m・兵庫県最大規模）などの山岳高原地帯とともに市内を八木川、大屋川、円山川が流れており、自然が豊かで、貴重な動植物も生息している。

また、国指定重要文化財の名草神社（三重塔、本殿、拝殿）、葛畑農村歌舞伎舞台、八木城跡を始め、県下最古の縄文遺跡・家野遺跡、国の天然記念物・樽見の大桜など、中世から近代の歴史文化遺産が数多く存在するほか、大杉ざんざこ踊り、若杉ざんざか踊り、九鹿ざんざか踊りなどの無形民俗文化財、伝統ある行事も継承されている。

（３）これまで行ってきた施策

養父市は「観光交流人口 150 万人達成」を目標に掲げ、氷ノ山、ハチ高原、若杉高原などのスキー場やレクリエーション拠点を始め、歴史・文化遺産、青谿書院、山田風太郎記念館、上垣守国養蚕記念館など郷土の偉人を顕彰した施設、石ケ堂古代村、但馬長寿の郷、天文館「バルーンようか」、ほたるの里、内山いちごの国、とが山温泉・天女の湯、関宮温泉・万灯の湯、道の駅「ようか但馬蔵」「但馬楽座」「やぶ」などの様々な交流施設を最大限に活かし、京阪神はもとより全国から誘客を積極的に推進している。

また、スキー場での各種イベント、氷ノ山登山大会、ロードレース大会、ほたるまつりなど、豊かな自然を生かした事業が催されているほか、世界的に有名になった「ビバホールチェロコンクール」や全国各地から出品がある「木彫フォークアートおおや」など芸術分野における市民主体の活動によって都市と農村の交流も定着し、官民一体となった交流促進や誘客を図っている。

（４）現状と課題

①　停滞している道路網整備

北近畿豊岡自動車道・和田山八鹿道路、国道９号・312 号、主要地方道など幹線道路の整備は順次進められている。しかしながら、第１期地域再生計画の実施により、集落から幹線道路を結ぶ道路などは多少の成果が期待できるものの、平成 24 年秋に予定されている北近畿豊岡自動車・和田山八鹿道路の開通後における国道９号の渋滞緩和のための道路や幹線道路から観光地・景勝地を結ぶ道路、林産地と幹線道路・林業施設（木材市場等）を結ぶ道路など末端の市道、林道などが未整備のため、しばしば渋滞が発生したり、安全な交通を阻害したりしている。

特に、同自動車道の供用を機に都市と農村の交流をより一層推進することが喫緊の課題となっている。

②　観光客の減少

氷ノ山・ハチ高原には、一時約 80 万人の入込み客があり、「100 万人のゲレンデ」というキャッチフレーズのもと 100 万人の誘客を目標にしていたが、現在では約 31 万人に減少している。

原因は、少子高齢化、不景気によるスキーヤー（スノーボーダー）の減少、他地域での新しいスキー場の開発、特色ある特産品・料理の不足、幹線道路（国道・県道）から観光地・景勝地までの道路が未整備であること、ハイキング・登山コースや身近な動植物を観察・楽しむことができる施設の未整備等があげられる。

当市におけるスポーツ・レジャーの拠点地域であるため、登山客や自然学校の外にも夏山への誘客を進めることが重要であるとともに観光バスの擦れ違いができる道路整備を進める必要がある。

③　地方を取り巻く自然環境の状況

戦後、広葉樹を伐採し、杉・桧などの針葉樹を植林したが、木材価格の低迷により、森林を放置してきた。未整備の針葉樹林が多くなった上に樹高が高くなったため、災

害に弱い森林へと化してきた。平成 16 年の台風 23 号では、但馬各地でかつてない多くの風倒木があり、兵庫県では豊かな森林は県民共通の財産という考えから「県民緑税」を活用した災害に強い森づくりを進めているところである。

市内でもその制度で里山防災林整備や針葉樹林と広葉樹林の混交林整備が行われているとともに、地域・各種団体など民間の活力により、森林を守り育てる運動が取り組まれている。

④　個性的な特産品や郷土料理の開発

豊かな自然を持つ観光地であり、地域の資源に恵まれているもののそれを生かした魅力的な特産品や郷土料理が不足している。

特色ある文化や但馬牛、農林産物などの地域資源を生かした特産品や郷土料理の開発が必要である。

④　加速する少子高齢化

養父市の高齢化率は、30.9%と全国比を大きく上回り、憂いを感じている。合計特殊出生率は 1.85 人と兵庫県で１位であるにもかかわらず、地場産業の低迷、雇用機会の減少などにより、地元に定住しないで都市部に流出してしまうことに歯止めがかからない状況である。

地場産業の再生、企業誘致など雇用の機会を増やすことが急務になっている。

（５）今後の方針

養父市は、これまで行ってきた施策を踏襲しながら、豊かな自然や遺産を有効に利用し、都市と農村の交流拠点となる「まるごと自然～但馬中央の郷　養父市」を目指す。

この実現に向け、北近畿豊岡自動車道と道整備交付金により整備した道路で、交流拠点を結ぶ新しいネットワークをつくることにより、更なる交流の促進、観光・農林業・商業の振興、地場産業の再生、新しい産業の創造、雇用の確保などを図る。

（目標１）道路、農林道整備による拠点施設へのアクセス改善

渋滞の緩和や通行時間を短縮し、移動に係る経費、燃料の消費を抑え、養父市最大の誘客スポットへ来やすい環境を整備する。

○　国道９号の渋滞緩和、西部地域から市街地へのアクセス向上

朝倉高柳線　　国道９号（上り車線）のＩＣまでの渋滞緩和
渋滞予想距離　３㎞　→　２㎞

○　県道福岡養父線からハチ高原へのアクセス向上・時間短縮

葛畑大久保線　観光バスのすれ違い　困難　→　容易
積雪時（冬期間）の通行　困難　→　容易
所要時間　15 分　→　13 分

（目標２）農林業の振興と但馬の風土にあった地域環境の改善（特産品の育成、広葉樹林の再生・保護）

林道が通行可能になることにより、林産物（材木・しいたけ等）の集出荷や森林の下刈り・枝打ち・間伐などの維持管理作業が容易になる。また、登山道・山道などと連絡することにより、珍しい動植物の生息地・景勝地などと連絡することができるほか、森林浴の場所にも活かすことができる。

○　林道開設による通行可能箇所の増

通行可能区間　→　２箇所増

○　間伐実施面積の拡大

間伐実施面積　→　160ha（当該林道利用区域内）

（目標３）若い人が定住でき経済的活力のあるまちづくり（地場産業の再生、企業誘致等）

○　有機・減農薬栽培面積　　69.0ha　→　75.0ha

○　観光客数（氷ノ山・ハチ高原）　　約 31 万人　→　約 42 万人

○　企業誘致数（合併後）　　３企業　→　８企業

５．　地域再生を図るために行う事業

（５－１）全体の概要

「市道朝倉高柳線」は、養父市の西部地域から市街地までを結ぶ幹線道路で、国道９号の上り車線が渋滞するため、迂回路として多くの車両が通過しており、北近畿豊岡自動車道・和田山八鹿道路が開通すれば、国道９号の渋滞はいっそう長くなり、市道朝倉高柳線の通行量はますます増加することが予想される。第１期計画時に米里集落内を整備したものの、高柳大橋の幅員が狭小で車両のすれ違いが困難な状況である。幹線道路として、通行量増、大型車の通行にも支障がない道路として橋梁とその前後を整備し、地域内交通の円滑化を図る。

「市道葛畑大久保線」は、冬季は西日本随一のスキー場、夏季は自然学校や学生のスポーツ合宿など、年間を通じてスポーツ・レクリエーションの拠点となっているハチ高原へのアクセス道路である。終点付近の未整備区間は幅員が狭小であり、観光バスのすれ違い（多い日には約 100 台/日）、積雪時（冬季）の車両通行が困難な状況であるとともに、ロッジやホテルが立ち並んでいる箇所もあり、冬季の排雪に苦労している。これらを解決するため、道路の完全２車線化と建物が立ち並ぶ箇所については堆雪帯を備えた道路を整備し、車両の安全を確保する。

また、林道は、森林の多面的機能の持続的発揮、林業・林産業の振興、山村地域の活性化に不可欠な施設であり、本計画では、森林施設、自然散策、森林浴、登山道などを

はじめ、通勤等の生活道路としても活用されている路線について整備を行う。

まず、「林道須留ヶ峰線」は、森地区の県道森大屋線を起点に、朝来市佐嚢地区の国道429号まで連絡する線形となっている。当該林道は、朝来市との市境に位置する須留ヶ峰（標高1,053m）をはじめ、1,000m級の山岳地域を縦断する県内で最も高規格な林道であり、沿線には豊かな人工林が広がっていることから、これらの森林の適切な保全管理が強く求められている。効率的・効果的な森林整備を推進していくには、森林整備に直結した林内路網の整備が絶対条件となるが、その骨格的な位置づけとなる「林道須留ヶ峰線」の開設整備は、これまで到達することさえも困難であった山間奥地林へのアクセスが向上するほか、森林整備に直結した森林管理道や作業道等の支線を計画的かつ容易に設置できる。

「林道八木谷大谷線」は、関宮地区の市道八木谷横次線を起点に、大谷地区の市道末広線に連絡する森林管理道で、妙見山山麓に広がる豊かな森林を適正に維持管理するための幹線的な林道としての役割が期待されているほか、通称「妙見道」と呼ばれる登山道とも連結し、点在する滝、美しい紅葉樹林などを眺望できるため、自然散策、森林浴など、地域の活性化に期待が寄せられている。

さらに体験型観光施設の充実と芸術文化による交流活動を推進するとともに地場産業の再生、地域の特性を活かした新しい企業の誘致、従来実施している地域住民の参画による都市と農村の交流事業を継続し、養父市らしい交流・観光事業を確立し、再び訪れたくなる市、さらには住みたくなる市を実現する。

（５－２）法第５章の特別の措置を適用して行う事業

※　道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

○　市道（朝倉高柳線）

※　道路法に規定する市道に平成７年９月29日に認定済。

○　市道（葛畑大久保線）

※　道路法に規定する市道に昭和59年９月21日に認定済。

○　林道（須留ヶ峰線、八木谷大谷線）

※　森林法に基づき円山川地域森林計画（平成17年４月１日策定）に路線を記載。

〔施設の種類（事業区域）、実施主体〕

○　市道（養父市）　養父市

○　林道（養父市）　兵庫県

〔事業期間〕

○　市道（平成24～28年度）

○　林道（平成24～28年度）

〔整備量及び事業費〕

○　整備量

・　市道　L=1.60km
・　林道　L=3.05km

○　事業費

1,411,000 千円（うち交付金　705,500 千円）
（内訳）市道　677,000 千円（うち交付金　338,500 千円）
林道　734,000 千円（うち交付金　367,000 千円）

（５－３）その他の事業（養父市）

○　体験型観光施設の充実と芸術文化による交流活動の推進

養父市の最大の誘客スポットは、氷ノ山・ハチ高原エリアである。スキーなどウィンター・スポーツに留まらず、四季を通じたレジャーやアウトドア・スポーツへの対応のほか、国定公園として自然保全を図りつつ、自然に親しむための利用促進が求められている。そのため、エリア全体を自然体験公園に見立て、身近な動植物、貴重な動植物を観察する遊歩道の整備、氷ノ山の登山道整備等とともに、若手民宿経営層で構成される「ハチ高原観光協会」と協働で受け入れ体制づくりを行なう。

また、大屋地域では、芸術資源の集積地「おおやアート村」を市民と協働で整備し「木彫フォークアートおおや」と併せ、新たな観光スポットづくりを行なう。関宮地域で平成 15 年に 37 年ぶりの復活を果たした「葛畑農村歌舞伎」を国指定重要文化財である歌舞伎舞台とともにアピールし、周辺の観光拠点と相乗効果を図る。

○　地域性を生かした特産品の開発・企業誘致

食の安全が求められる今日、有機・減農薬といった人に優しい農産物に対するニーズも高まっている。また、世界に誇る但馬牛、養父市原産の朝倉山椒、清流にしか生息しないヤマメ、アマゴ、優良な木材となる妙見杉など、市内には資源が数多くある。そのため、安全・安心で付加価値の高い農産物生産の仕組みづくり、市の資源を活用した特産品・郷土料理の開発を積極的に進める。

また、豊かな自然、きれいな空気と水が不可欠な分野を中心に、引き続き企業誘致活動を進める。

○　その他

地域再生法による特別の措置を活用するほか「まるごと自然～但馬中央の郷　養父市」を実現するため、従来から取り組んでいる都市と農村交流を促進するソフト事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

・　東鉢体験村・グリーンツーリズム事業
・　交流人増加事業・棚田のオーナー制度
・　交流協定都市(兵庫県明石市)との交流事業

６．　計画期間

平成 24 年度～平成 28 年度

７．　目標達成状況に係る評価に関する事項

４．に示す地域再生計画の目標については、この計画期間終了後に兵庫県、養父市が必要な調査を個別に行い、現状を把握し目的達成状況の評価、また、その時点での改善すべき事項の検討を行うこととする。